

◎第72回国民体育大会（2017えひめ国体）

期日：2017（平成29）年10月6日（金）～10日（火）

場所：松山市・愛媛総合運動公園 陸上競技場

神奈川県選手団 天皇杯 86点 第7位 皇后杯 40点 第10位

男子競技得点	女子競技得点	参加点	天皇杯総合得点	天皇杯順位
46点	30点	10点	86点	7位
	女子競技得点	参加点	皇后杯総合得点	皇后杯順位
	30点	10点	40点	10位

順位	男女総合（天皇杯）		順位	女子総合（皇后杯）	
第1位	大阪	132	第1位	大阪	87
第2位	東京	118.5	第2位	東京	72.5
第3位	京都	109	第3位	兵庫	72.5
第4位	兵庫	104.5	第4位	千葉	62
第5位	千葉	99	第5位	京都	57.5
第6位	北海道	91.5	第6位	北海道	52.5
第7位	神奈川	86	第7位	福岡	51
第8位	福岡	81	第8位	山形	44
			第9位	長野	41
			第10位	神奈川	40



◎入賞者からコメントをいただきました

須田 隼人（いなば食品） 成年男子 100m 2位

今回、国体に出場するのは6年ぶりです。選手に選ばれた喜びと同時に責任を感じる大会でした。

個人の結果は準決勝で自己ベスト、決勝では2位と今までで一番と言えるようなレース内容で、来シーズンへの課題とイメージを強く持つことができました。しかし、リレーは準決勝落ちと不甲斐無い結果で、自分自身の力、他のメンバーを引っ張る力のなさを痛感しました。

来年また代表に選考されて今回以上の結果を残したいと思います。

松永 大介（富士通） 成年男子 10000m競歩 5位

この度、成年男子10000m競歩に出場させていただき、5位入賞を果たしました。

国体は一年を通し、地元の神奈川に貢献できる数少ない機会でしたので、今大会は優勝を目標に日々のトレーニングに精進してまいりました。しかしレースでは自分の持ち味を生かすことが出来ず、5位という結果になってしまい非常に悔しい思いです。今後は3年後の東京五輪を見据えた中で、1年1年で自分自身が成長できるよう精進してまいりたいと思います。



メルドラムアラン（相洋高校） 少年男子A 400m 4位

今回の国体での経験は、私の高校生活、陸上生活においてとても大きな意味を持つものになりました。普段とは違うチーム状況の中で、神奈川県代表としてしっかり緊張感をもって試合に挑むことができました。また、神奈川県のトップ選手である、高校生や大学生の試合に対する考え方を知ることができ、とても刺激になりました。これからも日々、努力してもっと上を目指してまいります。

クレイアーロン竜波（相洋高校） 少年男子共通 800m 優勝

愛媛県で行われた国民体育大会において、少年男子共通800mで優勝することが出来ました。初めて国体に出場して、緊張したのですが、しっかり自分の力を発揮することができ、結果を残すことが出来ました。この結果に満足せず、これからも練習を積み重ねて頑張っていきたいです。

また、支えてくださった方々に感謝をしています。ありがとうございました。



泉谷 駿介（武相高校） 少年男子共通 110mH 3位 三段跳 6位

初めての国民体育大会に出場させていただきました。特に110メートルジュニアハードルは公式戦では初めてでしたが、予選・準決勝と身体が馴染み、3位入賞することができました。また三段跳にも出場しましたが、結果は6位という不本意な記録・順位となりました。チーム神奈川としてのプレッシャーを初めて経験しましたが、次に出場する機会があれば、優勝を目指して頑張りたいと思います。

青木 りん（東邦銀行） 成年女子 400m 6位

今回ふるさと選手として神奈川に呼んでいただけたことは非常に嬉しかったが、あまり貢献できず今までの国体のなかで一番悔しい結果となってしまった。初めて4×100mRも出場させていただき、個人ではなくチームで戦うことの難しさを改めて確認した大会だった。今シーズンは改善点が多く見つかったシーズンでもあるので、冬季練習をしっかりと積んで、また神奈川のユニフォームを着られるよう、頑張っていきたい。応援ありがとうございました。



高島 菜都美（相洋高校） 少年女子A 400m 6位

私は10月6日から行われた国民体育大会で少年女子A400mに出場させて頂きました。初めての国体出場でいつもは学校の代表ですが、今回は神奈川県代表として大会に参加し、普段は感じられない緊張感の中で大会に臨みました。日本の高校生のトップ選手が沢山集まっている大会はこれからの自分の成長に繋がるとも良い経験になりました。私はもっと神奈川県代表として相応しい選手になって来年も出場し、今年よりも更に上の順位を狙っていきたいです。

三村 香菜実（東海大相模高校） 少年女子B 100m 3位

愛媛国体の少年B100mに出場させて頂き、3位入賞することが出来ました。昨年の準決勝敗退という悔しさを糧に今年は頑張ってきました。記録にはあまり満足していませんが、目標にしていた順位に入ることができ、とても嬉しく思います。今回このような結果を出すことが出来たのも、サポートして下さった先生方や顧問の先生、チームの方々のお陰です。ありがとうございました。



リンズィーヘレナ芽衣（横浜市立金沢高校） 少年女子共通 1500m 6位



この度は、国民体育大会神奈川県代表に選出して頂き誠にありがとうございました。さて、今年は私にとって四度目となる出場でしたが、毎度神奈川県はの団結力には励まされます。大会参加によって芽生えた友情は数知れません。今シーズンはインターハイ前に腰を痛めてしまい、思うような結果が残せず悔しい思いをしました。国体に向け、再度ピークを合わせようと取り組んできた為、全国の大舞台で悔しさを晴らせた事を嬉しく思います。

神奈川県選手団のあたたかな雰囲気の中で競技が出来た事に感謝し、この気持ちを形にしてお返し出来るよう今後も努めていきたいと思っています。

中村 紗華（伊志田高校） 少年女子共通 三段跳 優勝

国体での目標はインターハイで惨敗した三段跳でのリベンジはもちろん自分を支えて下さったチーム神奈川への恩返しでした。試合中は誰よりも楽しむ事を意識しました。試技前に「いきます」と声を出すと「はい」と皆さんの大きな返事が聞こえ、それが自分の力となり大会新記録で優勝する事ができ、表彰式では自分の事のように喜んで頂きました。チーム神奈川の一員として結果を残せて本当に嬉しかった。ありがとうございました。



◎新しく常任理事になられた方よりご挨拶をいただきました

松尾 正弘 財務委員長

財務委員長に就任して

平成29年・30年度の役員改選におきまして、財務委員長に就任しました松尾正弘です。財務の関係業務に就くのは初めてであったこともあり、緊張と不安の中でしたが多くの方々の支えとご協力によって、財務業務を進めることができ何とか無事に現在に至っています。さて、陸上競技協会は法人化になって5年目を迎え、収支の状況も安定して正確に会計処理報告ができるようになりました。これは、今までの財務委員会のメンバー皆様のご努力と会計事務所からの助言、ご指導があったからこそ、迅速かつ正確に対応し適正に財務処理に努めることができたと思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

この度、任意団体時からの積立金の収入が今後見込めなくなること。また、日本陸連等からの主管料の減収が予想されること。以上の理由から、各郡市陸協、高体連、中体連のご理解とご協力をいただき、登録料の値上げをもって減収分の財源を確保できるようになりました。今後も例年と同額の収入が確保できることから、今後の事業も縮小せず、充実した事業を展開できると考えています。しかし、今回を期にこれまでの支出項目や支出額をしっかりと精査し、神奈川陸上競技協会の事業を今まで以上に充実させ発展に関わることができるよう努力してまいります。皆様方には、不慣れで何かとご迷惑とお手数をお掛けすることがあるかと思いますが宜しくお願いいたします。



加藤 智明 強化普及委員長

強化普及委員長に新たに就任して

今年度松尾正弘先生から強化普及委員長という大役を仰せつかりました加藤でございます。5月から新体制でスタートし早や半年が経過しました。強化部としては、(小・中・高・大・一般)の動向を状況把握し「国体・駅伝」での活躍を期待し事業展開しています。初の試みが多く、半年の中で準備・実践を通しながらまだまだ見通しが持たず、連日のように松尾先生へご指導を頂き何とかここまで至っているのが現状です。先日行われた第72回国民体育大会では、選手・スタッフのおかげで天皇杯(男女総合)「7位」という成果を出し、多くの方々に支えられ何とか無事に終了致しました。

この場を借りて御礼申し上げます。まだまだ、選考会、合宿、選手の調整法など全ての準備に課題が明確になりましたので来年に繋げればと検討してまいります。今後は、いよいよ「駅伝」シーズンへと移ります。都道府県駅伝男女アベック入賞を目標に支えていきたいと思っております。また、普及部の取組に関しては小出先生を中心に事業が展開されています。神奈川の強化を支えているのは小学生からの普及活動です。小学生からの土台(陸上競技への取組・経験)が重要なことは言うまでもありません。さらに中学生でのタレント発掘、高校生が本気で取り組めるあらゆる強化環境整備を図らなければなりません。小中高の充実した一貫指導がとっても大切な流れです。強化普及委員長として「神奈川県のために何ができるか」「試行錯誤」の中、さらなる「陸上神奈川」「駅伝神奈川」と全国へ発信していけますよう尽力していく所存であります。今後共、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



中野 賢一 審判部長

審判部長に就任して

今年5月より、前任の佐藤浩一部長の後を継ぎ、審判部長を務めることになりました。就任から半年、この間ゴールデングランプリをはじめ、県選手権、国体選考会、日清カップ、ジュニアオリンピック兼日本選手権リレー、さらに学連主催の競技会など、審判編成を中心に業務をこなしてきました。毎回審判員の確保に頭を痛め、十分な人数で編成することのできない部署もありましたが、主任・副主任の方を中心に、出席いただいた審判員各位のご協力を得て、何とか2017年の競技会を終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

現在、本協会における大きな懸案事項は、審判員の高齢化と若手審判員の不足という点です。これは郡市陸協においても同じことが言えると思います。今年、県内に登録している審判員は1500名余りを数えますが、そのうち60歳以上はおよそ600名になります。そして県陸協で委嘱する審判員についても半数近くが60歳を超えています。平日に開催する競技会ほどその割合が高くなるのは仕方のないことかも知れませんが、ほんの数年後を想定すれば恒常的に出席していただける若手審判員を確保することは緊急の課題と言えます。また併せて中体連・高体連の先生方へ積極的な協力を呼び掛けていくことも必要です。

一方、近年選手層の増してきた競歩競技や、新しい精密機器を扱う係もあり、こうした部署を担当できる人材を複数名育成することも大切なことです。

他にも様々な課題を抱えていますが、まずは競技者が安全で公平な環境の下に競技できることを第一に、観る側にとっても魅力ある競技会になるよう、各郡市陸協や係主任・副主任との連携・連絡を取りつつ、一つ一つ解消に向けた取り組みを続けていきたいと考えています。

どうか今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。



木村 尚由 競技運営委員長は、次回の広報誌に掲載します。

◎平成29年度 全国高等学校総合体育大会

期日：平成29年7月29日～8月2日

場所：山形県天童市 山形県総合運動公園 NDソフト スタジアム山形

宇野 大地（桐蔭学園） 100m 4位・200m 5位

今年の全国高校総体では100mでは4位、200mでは5位という成績を取ることができました。昨年参加させていただいた神奈川県合宿、関東合宿等でいろんな人から刺激をもらい、その経験が活かされた結果だと思っています。今年は愛媛国体選手に選出していただきましたが、度重なる怪我により出場を断念することになり、非常に悔しい思いをしました。この悔しさをバネに大学生になっても国体出場はもちろん個人・リレー共に全国制覇を目指して頑張りたいです。



喜納 周吾朗（東海大相模） 200m 6位

高校3年間でインターハイ入賞という目標を常に掲げ、日々努力してきました。そして、今年その努力してきた結果として、インターハイ200mにおいて6位入賞を果たすことができました。目標を達成できたことに対しては、とても嬉しかったのですが、ひとまずほっとした気持ちでした。もちろんこれだけでは満足しているわけではありません。さらなる高みを目指し、いずれは世界レベルになれるよう来年からは大学という場で新環境にはなりますが、引き続き謙虚に直向きに頑張っていきたいです。



渡辺 尚（武相高校） 走高跳 6位

全国高校総体の走り高跳びに出場しました。昨年は怪我により、県総体で負けて依頼この一年間は全国高校総体で優勝という目標をもって頑張ってきました。今年は県総体では優勝、関東大会も優勝と順調に成績を伸ばし、全国大会では更に記録を伸ばして優勝することを目標にしていたのですが、競技途中、足を攀ってしまうアクシデントがあり、結果は六位入賞となりました。今後はこの悔しさをバネに更に頑張りたいと思っています。

泉谷 駿介（武相高校） 三段跳 3位 8種競技 優勝

全国高校総体に陸上競技混成競技と三段跳びの二種目に出場をし、混成競技は優勝を果たす事ができ、またチームメイトの原口が準優勝となったことで、混成競技では初の同校ワンツーフィニッシュをすることができましたことは、一生の宝物となりました。三段跳びは三位と順位も記録も納得のいくものではありませんでしたが、この経験を今後のバネにして、更に成長して行きたいと思っています。

原口 凜（武相高校） 8種競技 2位

全国高校総体の混成競技に出場をしました。混成競技は昨年、八位入賞をしていることもあり、今年は優勝するという目標を持ってこの一年間頑張ってきました。結果、優勝することはできず、チームメイトの泉谷が優勝し、自分は準優勝となり、混成競技では初の同校ワンツーフィニッシュを成し遂げました。優勝こそできませんでしたが、三年間共に頑張ってきた泉谷と共に一生の宝物を手にすることができたことに感謝したいと思っています。

前川 梨花（川崎市立橋高校） 100m 7位

今年のインターハイの目標は優勝する事でした。県大会で11秒79を出すことができ、インターハイでは絶対に優勝したいという気持ちが強くありました。結果は7位でタイムも目標に届かずとても悔しい結果になってしまいました。中学生の頃から全国大会では、あまり良い結果が出せずにいたので今回入賞できたことは、とても嬉しかったのですが、自分の中ではやはり優勝を目指していたので悔しい思いの方が勝っています。この悔しさをバネにして来年のインターハイでは全国の舞台でベストを出し優勝したいと思います。



中村 紗華（伊志田高校） 走高跳 3位

山形インターハイでは沢山の方々の暖かさが身にしみました。初日に出場した走高跳で3位入賞をし、昼食で先生につれて行ってもらった焼肉店の女将さんが、お祝いにと山形牛をサービスして下さいました。最終日の三段跳前日に行った治療院の先生には御守りを頂きました。結果は予選敗退、悔しさが残りましたがそれ以上に沢山の方々への感謝の気持ちで一杯です。今後もこの気持ちを忘れずに陸上競技を続けて行きます。

大迫 晴香（平塚学園高校） 砲丸投 5位 円盤投 5位

二度目のインターハイ。去年は予選落ちで悔しい思いをしましたが、今年は二種目とも入賞することが出来ました。しかし、一年で一番大きな大会であるこのインターハイで自分の持っている力を存分に発揮することは出来ませんでした。

来年は高校陸上最後の年になります。常に日本一になる事を意識し、いつも指導して下さいる先生、支えてくれる家族、共に切磋琢磨している仲間感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきます。



◎第52回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

期日：平成29年8月11日～13日

場所：東京都 駒沢オリンピック公園 陸上競技場



中村 玲仁 (横浜明朋高校) 800m 3位 1500m 2位

私が1,2年生の時の全国大会は全く活躍できなくて悔しい思いをしてきました。この経験を生かし、最後の大会に挑みました。60分ジョギング、坂ダッシュやチェンジオブペースなどの練習に取り組みました。そのような練習を積み重ねて、1500mで2位入賞、800mでは3位入賞しました。今まで味わったことのないくらい嬉しく、一生忘れられない全国大会となりました。

田代 照 (日々輝神奈川高校) 1500m 5位、5000m 6位

私は、第52回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会で1500mと5000mの2種目で入賞することができました。昨年度、同種目で出場した時は出場できた喜びや満足感でいっぱいでした。しかし、今年度は表彰台まであと一歩だったので入賞して嬉しい反面、悔しい気持ちもあるので、まずは今まで競技に対する自分自身の甘い考えを変えていきたいです。そして、来年度は全国大会で2種目優勝できるようにあと1年、強い気持ちを切らさずに練習していきたいです。



佐野 大志 (秀栄高校) 5000m 2位、3000mSC 3位

今年度、私は全国定時制通信制陸上競技大会に出場しました。昨年の結果を上回るように練習を重ねてきました。ハードルに苦手意識を持っていた3000mSCでは昨年より良いタイムで同様に3位でしたが、5000mは優勝を狙える位置にいたにもかかわらずタイムが伸びず2位と少し悔しさと物足りなさが残ってしまいました。高校の部活動は引退しますが、陸上競技は自分を成長させてくれるものなので、フルマラソンに出場することを目標に、これからも陸上競技を続けていきたいと思っています。

高木 悠稀 (横須賀高校) 400mH 7位

BMW スタジアムでの神奈川県予選では、400mHは第1ハードルの着地に失敗し、転倒してしまいました。慌てて眼鏡を拾い走り出したところ、2位まで追いつける事ができ、苦笑してしまいました。走り高跳びと2種目で全国大会に出場できました。全国大会では、得意の「走り高跳び」の方は不調で「記録なし」で終わってしまいましたが、400mHでは入賞することができ、やはり嬉しかったです。これからもがんばります。

色川 輝 (日々輝神奈川高校) 3000mSC 4位

私は、全国高等学校定時制通信制陸上競技大会に3年連続で出場することができ、さらに3年連続で入賞もできました。そして、最終学年では3000mSCで4位入賞という過去最高成績を残すことができました。この成果は、部活動の仲間や顧問の先生、そして家族のサポートがあったからこそ達成できたものだと思います。これからの人生では、この部活動での経験を活かしていくと同時に、色々な人の支えがあることを忘れずに感謝の心を持って歩んでいきたいと思っています。



山谷 祥 (向陽台生蘭高校) 3000mSC 5位

慣れない競技での初めての全国大会は不安で一杯でした。短い練習期間の中で入賞できたことはとても嬉しかったです。陸上は楽しいことばかりでなく、辛いことも沢山ありました。しかし、辛いことを乗り越えるたびまた一つ成長できたなという実感もありました。また、継続することの大切さと難しさも学ぶことができました。陸上競技を続け、多くのことを学び、大きく成長することができました。今後の生活において今まで培ってきたものを自信により一層頑張っていきたいと思っています。

須藤 和哉 (川崎市立橋高校) 走高跳 4位

3年で初めて出場した全国大会は、雰囲気や会場の様子が驚いたことを覚えています。結果は二種目とも入賞することができませんでした。

4年生になった今年は走り高跳びだけで挑戦することに決めました。大会当日は、仕事疲れのためか身体が重く、先生と相談し、競技前まで休むようにしました。『無理しなくていいよ』と言われてとても楽になりました。決勝では、なぜか身体も気持ちも軽くなり、バーが低く見えたのは不思議です。結果は4位に入賞をすることができ嬉しかったです。先生にもよい思い出をつくることができました。





伴 和樹（横浜翠嵐高校） 走幅跳 6位

私は高校に入ってから陸上競技を始め、全国に行くという目標を持ちながら練習に励んできました。中学校までは野球をやっていたのですが、あまり良い成績を残すことが出来なかったのも、その悔しさをバネにきつい練習に取り組んできました。全国大会でも「自分を信じて跳ぼう」と決めていたので、結果に繋がってとてもうれしかったです。今回の入賞に満足すること無く、来年は表彰台の一番高いところを目指します。

中平 晃太郎（厚木清南高校） 三段跳 2位

今回入賞できたのは決して自分一人の力ではないと感じています。予選会から競い合ったライバルでもある他校の仲間たち、またご指導くださった先生方に感謝したいです。皆さん本当にありがとうございました。準優勝が決まったときは正直悔しい気持ちでいっぱいでした。一位との差は十五センチメートル。あと少しのようでそこには大きな壁があるように感じます。来年こそは思い残すことのないよう、満足のいく結果を残したいです。



神山 征大（横浜明朋高校） 三段跳 3位

私は1・2年生のとき全国大会に走高跳びや走幅跳びに出場しましたが、入賞には届かず記録が伸び悩んでいました。2年生の秋から三段跳びに取り組む始めて、顧問の先生が三段跳びを細かく指導して下さいのおかげで3年生の全国大会で3位に入賞することができ、とても良い経験ができました。三段跳びに出会えて記録や結果に自信をもつことができ、楽しい陸上生活を送ることができました。顧問の先生や家族にとっても感謝しています。



溝口 郁也（秀英高校） 砲丸投 4位

今年度、私は初めて全国定時制通信制陸上競技にすることができました。結果は砲丸投で4位入賞でしたが、内容的にとっても悔しい思いをしました。大会に出場し、自分に足りない点がいくつも浮き彫りになり、練習が足りないと感じました。全国大会に参加できるのは来年で最後になるので、この悔しい思いを胸に刻み、これから一層努力を重ね、次こそは晴れやかな気持ちで表彰台に立てるように頑張りたいと思います。

加藤 茜（横浜修悠館高校） 100m 優勝 200m 優勝

横浜修悠館高等学校陸上競技部の加藤茜です。日頃よりたくさんのご支援とご指導に心より感謝申し上げます。今回、全国高等学校定時制通信制陸上競技大会において、100m、200mの二冠を取ることができました。目標であった大会記録更新には一歩及ばず達成することができませんでしたが、目標に向かって努力してきたこの高校三年間は、私を大きく成長させてくれました。これまでご指導して下さい先生方、応援して下さい保護者の方々、更には神奈川県陸上競技に携わる先生方、大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



須藤 舞（向陽台生蘭高校） 走幅跳 4位

全国大会の出場が決まった時はとても嬉しかったです。全国大会までの日数が近づき、気持ちは嬉しさから緊張へ変わっていきました。練習では思うように体が動かなかったり、不安が残る中で本番を迎えました。6回の跳躍で十分に力を発揮できませんでしたが、確実に記録を残し、4位に入賞することができました。初めての全国大会で入賞することができ嬉しく思ったのと同時に緊張していた気持ちがスッと楽になりました。全国大会では確かな手応えを感じたので、来年こそは絶対に優勝したいです。

小川 菜摘（追浜高校） 走幅跳 7位

私は今年、初めて全国高等学校定時制通信制陸上競技大会に出場して、走幅跳で7位に入賞し、全国大会入賞という目標を達成することができました。陸上競技を始めたのは去年の春、運動経験は全く無くマイナスからのスタートでしたが、自分なりの目標を持ち、顧問の先生に沢山の技術を学び、努力を重ね、今回このような結果を残すことができました。今後は、来年の大会でもっと上の記録、順位を目指すという目標を持ち、今まで以上の努力を重ねていきたいと思っています。



竹内 あい（川崎市立橘高校） 円盤投 6位

私は、2年間全国大会に出場しました。一年目は、高校三年の夏で種目は円盤投げです。決勝まで行けたのは嬉しい反面、悔しくもありました。結果は9位で入賞はできませんでしたが。来年は必ず8位以内に入りたくて強く感じました。4年生になった今年はもう一度、フォームから見直し、取り組みました。上手くいかない時もありませんでしたが全国大会で6位入賞することができました。昨年より、三つ上げることができ嬉しかったのですが終りたくない、もっと投げたいと強く感じました。私にとって全国大会のフィールドや会場の雰囲気全てが心地よく、楽しいことも悔しいことも話まった場所です。2年間、とても充実した経験です。

◎第44回全日本中学校陸上競技選手権大会

期日：平成29年8月19日～22日

場所：熊本県 熊本県民総合運動公園陸上競技場

片岡 巧（塚越中学） 110mH 2位

私は、全国大会で絶対に決勝に残るという強い気持ちで予選に挑みました。予選では、ベストを出し、楽しいという感覚を思い出すことができました。準決勝もベストを出し決勝に残ることができました。決勝では、「勝つだけ」と考え挑みました。結果は、2位でしたが、ここでもベストを更新することができました。今まで支えてくれたチームメイトや親、顧問の方々に感謝し、ジュニアオリンピック大会では優勝したいと思います。



麻生 涼馬（菅生中学） 走高跳 2位

今年多くの人の支えがあったおかげもあり、全国大会に出場ができ、そして入賞できたことをとても嬉しく思います。このことは、とても良い経験となり、自分を陸上選手として大きく成長させてくれるものとなりました。今後は、高校でも陸上を続けていきよりよい記録を目指し、そして全国大会で優勝できるような選手になりたいと思います。これからも頑張っていていこうと思います。

君島 茉那哉（湯河原中学） 走幅跳 5位

僕は、中学1年生の時から陸上競技をやってきました。最初のうちは、先輩たちを超える気持ちで練習していました。2年生の冬休みに県の強化合宿に参加しました。その時に新しい目標ができました。それは、全国大会に出場することでした。そこから、その目標に向かって日々練習してきました。3年生になり、先生方の指導のおかげもあり、県の通信陸上大会でいきなり7mジャンプをすることができました。僕は、この調子なら全国大会優勝できると思い、目標をさらに高く設定をしました。しかし、全国大会本番では思うような跳躍ができず、5位で終わってしまいました。正直、悔しかったです。でも、全国5位は決して悪いものではないと思うので胸を張っていきたいです。

全国大会を含め、この3年間とても良い経験ができて嬉しかったです。ここまでこれたのは、部活の仲間と先生方の指導のおかげだと思っています。高校では、さらに良い結果を残し、大会記録を更新していきたいと思っています。

米山 大晟（茅ヶ崎中学） 四種競技 優勝

全国大会で優勝するまでには、とてもたくさんの怪我をし、練習が順調に進まず、悩み苦しんだ時もありました。しかし、仲間を支えられ、先生に指導していただいたので乗り越えることができました。本番はリレーにも出場することになっていたのが大変でしたが、楽しく、全力で競技に臨めました。2日間の競技を終え、優勝することができた時は本当に嬉しかったです。全国大会で様々な経験をすることができたので、これからの競技に活かしていきます。

岡 泰我（秋葉台中学） 四種競技 4位



僕は、全国大会のような大きな大会に出場するのは初めてなので、現地に着いたときは、その場の雰囲気や飲み込まれ、記録を出せるか不安でした。しかし、今まで支え合ってきたチームの仲間や、応援してくれた人たちのことを思い出し、競技にはリラックスして挑むことができました。結果は4位で、目標にしていた優勝、そしてメダルを獲得できず、本当に悔しくて泣き崩れました。高校ではこの悔しさをバネにして、自分に適した種目を見つけ、自分の力を伸ばしていきたいです。また、大きな舞台で記録を残し、優勝したいです。そして憧れの先輩の記録を抜きたいです。

茅ヶ崎中学 4×100m 6位

この3年間、リレーで全国に行くことを目標として練習してきたので、全国大会に出場できることが決まった時はとても嬉しく思いました。本番ではメンバーの中に個人種目を兼ねている人もいて、その中で競技を行うのはとても大変でした。しかし、常に支えて下さった先生や、身の回りのサポートをしてくださった保護者の方のおかげで、競技に集中することができました。そこで、自分達がたくさんの人に支えられていることを改めて実感することができました。目標の記録を達成することはできませんでしたが、先生や仲間とともに作戦を立て、全力で挑んだ全国大会で入賞できたことはとても嬉しかったです。

<リレーメンバー 安田 原田 渡辺 山崎 富田 米山（チームリーダー渡辺）>

佐藤 瑠歩（羽鳥中学） 200m 7位

予選から気合いを入れて挑みました。私は去年、100mで出場していたものの、まわりの空気にもまれてしまい自分の走りができず予選敗退。今年は去年のリベンジでもあり、気持ちで負けないよう集中し続けました。自己ベストを目指していたので悔しい気持ちもありますが、ずっと目標にしていた全国の決勝の舞台で走ることができ、とても嬉しいです。この時の気持ちを忘れず、これからももっと上を目指し前進していきたいと思っています。

頼安 乃々香（塚越中学） 100mH 6位

今まで、この全国大会で優勝することを目標としてきたので、今までにない悔しい思いをしました。しかし、今は6位という結果を受け止めて、どんな辛い練習も悔しい気持ちをぶつけて、乗りきることができています。そして、この全国大会が終わって、改めて一緒に練習を乗り越えてくれた仲間たちに感謝したいです。一緒に練習できる日数もあとわずかですが、しっかりと練習して10月下旬に行われるジュニアオリンピック大会で全中のリベンジをしたいです。



◎ “日清食品カップ” 第33回全国小学生陸上競技交流大会

期日：平成29年8月19日

場所：神奈川県 日産スタジアム陸上競技場

神奈川県選手団 中西 慧牙（横須賀陸上リトルスクール）

僕は、神奈川県選手団のキャプテンを務めさせていただきました。僕が出場した4×100mリレーでは、チームのベストタイムは更新できましたが、100分の1秒差で準決勝進出できず、すごく悔しい思いをしたので、この悔しさを忘れず、これからも日々努力していきます。キャプテンとしては、他の種目も精一杯応援しました。中でも女子のリレーが入賞したことは、とても嬉しかったです。この大会で他県の選手ともたくさん交流を持つことができ、さらに陸上が好きになり、とても良い経験ができました。

女子4×100mRメンバー（横浜AC）

三橋 亜海	全国大会という舞台に神奈川県代表として出られたことは、とても嬉しかったです。この経験を活かして、色々なことにもチャレンジしていきたいと思います。
谷藤 日菜	全国大会という大きな舞台に立てたことは、良い経験になりました。緊張したけれど、自分が持っている力を全て出し切ることができたので良かったです。
横谷 妃香	私たちのチームは全国大会で入賞するという目標に向かって5人で練習を積んできました。バトンパスがうまくいかない時は、励ましあったりアドバイスをしたりと協力して乗り越えてきたから八位入賞という結果につながったのだと思います。この大会を通して仲間の大切さを学ぶ貴重な経験ができたと思います。私にとって思い出に残る夏になりました。
藤本 泉月	監督、コーチ、チームメイト、家族、そして全国メンバーに支えられ、目標だった入賞を成し遂げる事ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。
山村 心弥	同じ目標に向かって、チームの仲間と楽しく競技することができたこと、そして何よりも神奈川県代表チームの一員として全国大会を経験できたことは、一生の思い出となりました。

◎第5回全国高等学校陸上競技選抜大会

期日：平成29年8月26日～27日

場所：大阪府 ヤンマーフィールド長居陸上競技場



澤田 夏輝（麻溝台高校） 300m 3位

私の今シーズンは非常に厳しいものでした。シーズン直前に膝の靭帯損傷のために、県総体の出場すらできませんでした。ライバルが大舞台で戦っているのを見て、本当に悔しく涙が止まりませんでした。陸上を辞めようとした時も何度もありました。しかし、応援してくれる仲間や支えてくれた先生、家族。更には復帰を待ってくれたライバルがいたおかげで、私は全国高校選抜大会で3位という結果を出す事ができました。これからも、「楽しむ」事を忘れず、昔からの夢を現実に変えるために日々精進していきます。

高橋 祐哉（藤沢翔陵高校） 10000m 7位

私は全国選抜で7位に入賞することができました。実績も実力もありませんでしたが、強い気持ちを持って走ることができたのでこのような結果となったのだと思います。どんな時でも強い気持ちがあれば良い結果に結び付くのでそれを忘れずに練習し、強い選手へ成長していきたいです。

また、家族や先生など支えてくださる人がいるという事を忘れずに生活していき、良い結果で恩返しができるよう頑張ります。

山内 滉士郎 (旭丘高校) 2000mSC 5位

旭丘高等学校陸上競技部の山内滉士郎です。山形インターハイに続き、全国高等学校選抜陸上に出場させていただきました。インターハイでの予選敗退の悔しさと日頃お世話になっている方々への感謝の気持ちを込めて挑み、先頭とは5秒差の5分52秒64で5位に入賞することができました。

全国大会初入賞で嬉しさもありましたが、自分の弱さを見つけることもできました。この先の大学ではさらに成長を遂げ、箱根駅伝で活躍できる選手を目指します。



南木 伸也 (横浜高校) 3000mW 8位

全国高校選抜高校大会を終えて、自分自身に自信がついたと思います。今まで大きな大会で実績を残すことがありませんでした。毎日の練習が試合の結果に結びつくことが少なかったため、それでも努力をすれば報われることを信じて、練習に取り組んできました。競歩の強豪チームの一員として、全国大会に入賞できたことは本当に嬉しく思います。私の競技人生の中で、思い出に残る大会となりました。

中村 みのり (三浦学苑高校) 3000mW 6位

この大会は私にとって初めての全国大会でした。レベルの高い選手が多くいる中で歩くのは初めてでとても緊張しましたが、新鮮な気持ちでレースに挑むことができました。

全国レベルのレースは序盤からハイペースで、初めはついていくことができて、1000m過ぎてからはほぼひとり旅でした。

気温が高いことで、体力的にも厳しいレースでしたが、この舞台で戦い、入賞できたことはとてもいい経験で自信にも繋がりました。

〜トピックス〜

◎第34回東日本女子駅伝競走大会

期日：平成29年11月12日(日) 12時05分スタート

場所：日本陸連公認「FTVふくしま」マラソコース 9区間 42.195km

神奈川県チーム区間記録及び総合成績 **総合第5位 2時間20分25秒**

区間	距離	氏名	所属	区間記録	区間順位	通算記録	通算順位	備考
1区	6.0km	吉村 玲美	白鷗女子高校	19分31秒	4	19分31秒	4	
2区	4.0km	今村 咲織	順天堂大学	13分38秒	4	33分09秒	4	
3区	3.0km	リブアイハル 芽衣	市立金沢高校	10分23秒	3	43分32秒	3	
4区	3.0km	井上 明南	井田中学	10分44秒	14	54分16秒	4	
5区	5.087km	赤坂 よもぎ	名城大学	17分25秒	6	1時間11分41秒	7	
6区	4.107km	長濱 夕海香	大阪芸術大学	13分35秒	3	1時間25分16秒	4	
7区	4.0km	西山 未奈美	白鷗女子高校	12分36秒	1	1時間37分52秒	3	区間新
8区	3.0km	伊藤 南美	緑が丘中学	9分53秒	9	1時間47分08秒	3	
9区	10.0km	出水田 真紀	立教大学	32分40秒	5	2時間20分25秒	5	

【上位入賞】

順位	都道府県名	記録
優勝	千葉	2時間18分37秒
2位	長野	2時間19分21秒
3位	茨城	2時間20分15秒
4位	静岡	2時間20分19秒
5位	神奈川県	2時間20分25秒
6位	宮城	2時間22分27秒
7位	東京	2時間22分35秒
8位	埼玉	2時間23分12秒

◎第 17 回総務委員会女性部講習会ならびに総会を開催

11月18日(土) 女性部総会、講演会がワークピア横浜にて開催されました。

今回の講演会は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の森 泰夫氏を講師にお招きし、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツを支える審判員やボランティアスタッフの重要性についてご講演をいただき、意見交換等を行いました。



◎神奈川陸上競技協会 競歩審判員研修会のご案内

- 1 日時：平成 30 年 3 月 25 日 (日) 13 時 30 分～ 16 時 30 分 (予定)
- 2 場所：中央大学附属横浜中学校・高等学校 グランド・会議室
- 3 講師：常盤 信欽 (JWRJ・日本陸連競歩審判員)
- 4 参加料：無料
- 5 問い合わせは、神奈川陸上競技協会 競技運営委員会 審判部まで

◎都市陸協だより (第 6 回：三浦郡陸上競技協会)

葉山町の陸上競技団体は、葉山村から葉山町となった 1925 (大正 14) 年、当時の陸上競技愛好者らが結成した「三浦半島陸上競技クラブ」が始まりのようです。その後、1975 年に横須賀陸上競技協会の下に「葉山町陸上競技協会」が設立され、1984 年に神奈川陸上競技協会の加盟団体として「三浦郡陸上競技協会」が発足しました。

三浦郡陸協は、葉山町における陸上競技を統括する団体として、陸上競技の普及と振興を図り、葉山町民の心身の健全と明るく豊かな町民生活に寄与するために葉山町等関係団体と連携して活動しています。会員は賛助会員を含めて現在 35 名です。

主催する陸上競技大会としては、毎年 1 月の葉山町民駅伝大会、6 月の町民マラソン大会があり、今年で駅伝大会が 32 回目、マラソン大会が 42 回目を迎えました。



(第 42 回葉山町民マラソン大会 (2017 年 6 月 4 日葉山町南郷上ノ山公園で小学生の部))

陸上競技者の育成については、小学生を対象とする陸上教室が 2 教室あり、町外の陸上競技大会へも積極的に参加しています。また、中学生の陸上競技力が向上したこともあり、以前、「市町村対抗かながわ駅伝大会」では最下位が常連でしたが、近年では、全体の中位、町村の部では入賞するまでになったことは、昔を知る会員には感慨深いものがあります。

今後も陸上競技の普及と競技力の向上を推進していかなければなりません、高齢化しつつある現役員から次世代層への引き継ぎが当面の課題となっています。

神奈川陸協関係者の皆様には、今後とも変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

文責 三浦郡陸上競技協会 会長 畔柳 五郎

※次回の「都市陸協だより」は鎌倉市陸上競技協会にお願いします。